

1. 獨協医科大学におけるPBL チュートリアル教育の学 生評価法と今後の課題 第二報

チュートリアル教育委員会

内田幸介, 吉原重美, 松田隆子, 柳田 修,
今村武佳, 本田幹彦, 武藤孝司, 金子 昇

【目的】チュートリアル教育において評価法の標準化は極めて重要な問題である。今回、昨年度との比較において問題点を報告する。

【方法】昨年同様、評価はチューター評価(問題抽出能力, 自己学習能力, 説明能力, グループへの貢献度, 多面性, 統合性の6項目), レポート評価, 出席点で行い, 学生にも自己評価させた。

【結果】1, 2学年では説明能力, 多面的展開能力が低く, また成績の低い学生は自己評価でより高く評価する傾向にあった。チューター間の「評価のばらつき」は1, 2学年で改善していたが, チューター未経験者が半数以上の3学年チューター間では昨年とほぼ同様であった。

【結論】評価説明能力, 多面的展開能力を高める改善策と, チューター未経験者に対する講習会などの対策が今後, 必要と考えられた。

2. 看護師を対象とした自動 体外式除細動器(AED)講 習会の有用性

救急医学

松島久雄, 崎尾秀彰

【はじめに】心停止となった傷病者では, 心停止から除細動実施までの時間が傷病者の予後を決する最も重要な因子となる。平成16年4月, 厚生労働省は早期の除細動を可能にするために, 非医療従事者によるAEDの使用のあり方を検討し始めた。本学病院もAEDの設置を申請し, 看護師対象のAED講習会も開始した。

【目的】AED講習会の有用性を検討する。

【対象・方法】平成16年4月から11月までに講習会を受講した看護師151名。5~6人の小グループで, 約1時間40分の講習会を実施, 講習開始時と終了時に○×形式のテストを行った。採点結果はmean ± SDで表示し, それぞれ個人の結果はPaired t-testにて検定した。

【結果】講習前52.9 ± 14点 (20~80), 講習後76.4 ± 10点 (50~100), AED講習会前後でテストの点数に有意差を認めた ($p < 0.0001$)。

【結論】AED講習会は有用である。